



地方公務員 海外派遣研修参加レポート【第一回】

地方公務員海外派遣研修事業は、アジア諸国の地方行政や地域づくりに対する理解を深めることを通じて、地方公務員の国際感覚の涵養を図ることを目的として、(財)自治体国際化協会が、総務省、全国市町村国際文化研修所(JIAM)との共催で実施している一〇日間程度の海外研修です。

ここでは、平成一八年度に実施した、中国コース(九月六～一六日)、韓国コース(一〇月四～一四日)、東南アジアコース(一〇月二五日～一一月四日)の参加者レポートを三回にわたり紹介します。

第一回目は中国コース参加者のレポートです。

平成18年度地方公務員海外派遣研修(中国コース)日程

日程	摘要
9/5(火)	前日 全国市町村国際文化研修所(JIAM)入所 (JIAM泊)
9/6(水)	1時限 開講式、オリエンテーション
	2時限 地方公共団体の国際化施策
	3時限 中国事情(国政制度)
	4時限 中国事情(地方行財政制度)
	5時限 海外研修オリエンテーション (JIAM泊)
9/7(木)	1～4時限 中国語の基礎
	5時限 中国事情(社会経済) (JIAM泊)
9/8(金)	1時限 日中関係
	2・3時限 中国事情(歴史)
	4・5時限 中国語の基礎 (JIAM泊)
9/9(土)	関西国際空港～北京空港
	(財)自治体国際化協会主催歓迎会 (北京泊)
9/10(日)	終日自由行動 (北京泊)
9/11(月)	国家行政学院での講義
	「第11期5カ年計画における中国の将来像とその政策について」
	「中国経済における課題と政策について」
	(財)自治体国際化協会北京事務所訪問
	在中国日本大使館訪問
	中国外交部歓迎夕食会 (北京泊)
9/12(火)	北京市行政施設視察(北京市計画展覧館)
	北京空港～ウルムチ空港
	ウルムチ市内視察
	新疆ウイグル自治区人民政府外事弁公室主催歓迎夕食会 (ウルムチ泊)
9/13(水)	新疆ウイグル自治区人民政府による説明(ホテル会議室)
	「発展改革委員会による新疆経済社会発展状況に関する説明」
	「人事庁による行政の状況に関する説明」
	「財政庁による財政方面に関する説明」
	ウルムチ経済技術開発区視察
	金風技科視察(風力発電の開発、エンジンの生産会社)
	阿尔曼実業有限公司視察(少数民族創業の自然食品会社)
トルファン市へ移動 (トルファン泊)	
9/14(木)	トルファン市民政府訪問
	観光施策に関する説明および関係者との座談会
	トルファン市内視察
	ウルムチ市へ移動 (ウルムチ泊)
9/15(金)	ウルムチ空港～上海(虹橋)空港
	上海市内視察 (上海泊)
9/16(土)	上海(浦東)空港～関西国際空港
	着後解散

中国派遣研修に参加して

大阪府泉大津市健康福祉部児童福祉課

寒 久美

今回のお話をいただいたとき、初めは一日間もの日程の研修に参加して、周囲に迷惑がかららないかと不安に思いました。しかし、昨年この研修に参加された先輩から資料を見せていただき、特にJIAMでの国内研修の講義内容を見て、参加したいという思いが強くなり、上司や同僚の方々の励ましもあって、思い切つて参加させていただきました。

中国という国については、以前から不思議に思ったり、疑問に感じるところが数多くありました。JIAMでの国内研修では、そういった疑問の元になっていた中国の行政制度、特に地方行政と共産党との関係等について、興味深くお聞きすることができ、学生時代に戻ったようでした。

海外研修では、訪問先は北京での国家行政学院や中国外交部をはじめ、個人では到底行けないような場所ばかりで、緊張することも多かったのですが、とてもいい経験になりました。

新疆ウイグル自治区は、子どものころ、NHKの「シルクロード」を見て以来、行ってみたいと思っていた場所であり、中国文学においても、唐詩に詠まれた「西域」として、また日本人にもなじみ深い「西遊記」の舞台にもなっている土地として、初めて訪れることに感慨深いものがありました。な

にしろ関空から北京より、北京からウルムチのほうが遠いのですから。

しかし、空港からバスで市内に向かう車窓から見たウルムチは、ごく普通の中国の地方都市という印象でした。もちろんその後市内を見学し、随所にイスラム色は感じましたが、ウルムチでは経済技術開発区等、発展的な部分への研修が主だったので、「西域」としてのイメージはむしろトルファンに行つてから強く感じるようになりました。ウルムチからトルファンへはバスで約三時間、高速道路の両側に羊、牛、馬をはじめ、ラクダまでが、のんびりと行き交っている風景は、先日まで滞在していた北京と同じ国とはとても思えないものでした。トルファン市内に入つてからも、車の数はウルムチとは比較にならないほど少なく、少し中心部を外れると、私たちの乗ったマイクロバスの横をロバ車が通つたり、ブドウ畑や、干しブドウを作るための乾燥小屋が並んでいたりと、心休まる風景でした。トルファン市政府の方々との座談会の中で、多くの観光資源を持つトルファンが、観光都市として発展していくためには、インフラの整備が課題となつてくると感じましたが、



↑ウルムチ郊外での風力発電

このような素朴な風景がなくならないよう、うまく折り合いをつけて発展してほしいものだと思います。

最後の訪問地である上海

へは実に一五年ぶりの訪問で、一五年前は地下鉄も建設中で完成しておらず、浦東地区にいたつては、影も形もなかったため、その変化の大きさにあらためて中国の発展を感じました。

国家行政学院での講義の中で、「協調」「和諧」という言葉が何度も出てきました。ともに日本語では主に「調和」と訳されており、中国政府が改革開放路線を進めるうちに明らかになってきたさまざまな矛盾点をどのように解決していくかに重点を置いているということが伺えました。国内研修における講師の先生方は、二〇〇八年の北京オリンピック、二〇一〇年の上海万博以後が中国の重要な転換期であるとの見方を示されました。

今、日中関係は必ずしも良好であるとはいえない面もありますが、著しい経済成長の只中にある中国が、今後転換期を迎えた際、うまく連携していけるよう、より友好的な関係が築ければと思います。



↑トルファン市人民政府による意見交換会

地方公務員中国派遣研修に参加して

奈良県自治能力開発センター

原田 徳義

今回の中国での研修先は、北京、ウルムチ、トルファン、上海の四カ所であり、私自身、観光で上海へは訪問したことがありますが、そのほかの地域は、写真でしか見たことがなく、出発前は、中国での研修を非常に楽しみにしていました。

中国を語る場合のキーワードとしては、広大な面積、人口が多い、多民族、悠久の歴史、急速な経済発展、反日感情、貧富の格差など、数多くありますが、今回の中国での研修では、その一面を垣間見た感じがします。

最初の訪問地の北京は、想像以上に大都会であり、北京オリンピックを二年後に控え、北京市内のいたるところで、工事が行われていました。特に、古い民家があちこちで壊され、ビルや道路が造成されている様子は、中国の急速な経済発展の姿を目の当たりにした感じでした。

次に、北京から飛行機で四時間、ウルムチに到着すると、一見、北京と同じような高層ビルが建ち並び、都会的な景色を目にすることができ、旧市



↑日本大使館

街にあるバザール(市場)に行く



↑ウルムチ国際大バザール

と風景は一変し、モスクのあるイスラム文化圏に変わるので、市内にある看板も、漢字とウイグル文字で書かれており、生活している人々も、漢民族とは明らかに違う民族が、中国語とは異なる言葉(ウイグル語と思われる)で話しています。新疆は少数民族の地域で、風景も北京とはかなり違うという話を伺っていましたが、実際に訪れ、新疆ウイグル自治区地方政府の幹部の方より、新疆では四七民族が居住しているという説明を聞き、中国が多民族国家であることを実感しました。

ウルムチの次にトルファンを訪問するた

め、バスで天山山脈を越えて行きましたが、その道中の風景は、西遊記の時代からほとんど変わっていないのではないかと思うぐらい手つかずの美しい自然が残っています。特に火焰山は、その名のとおり赤い岩でできた山で、一帯も非常に熱いところで、古代シルクロードを肌で感じられる場所です。

こうした美しい自然が残る新疆ですが、ここ数年間、中国の中央政府が、西部大開発というスローガンのもとに、資源開発や社会資本の整備を大々的に行っています。

新疆ウイグル自治区地方政府の方の説明を伺い、この西部大開発は、ともすれば独立運動が起りかねないこうした少数民族自治区の住民の生活改善を促し、不満への抑止効果を働かせているとともに、一方で、この地域にある豊富な天然資源を開発し、中国のエネルギー資源を賄うという国としての重要な政策で、二つの意義を持つものではないかと思いました。

新疆を後にして、最後の訪問地である上海は、私が数年前に観光で訪れた時と比べ、さらにビルが乱立し、二〇一〇年に開催予定をしている上海万博の会場も着々と整備が進んでいるのを見て、ここでも開発のスピードの早さに驚かされました。

このように、中国のさまざまな面を見て、聞いて、感じた中国研修でしたが、訪問したすべての機関で、友好的に接していただき、心配していた反日感情も全く感じられませんでした。昨今の日中関係は、政府レベルではよくありませんが、地方自治体レベルの交流に関しては、むしろ積極的であると感じられ、良好な日中関係の構築に自治体間の友好交流が重要な役割を担っているとあらためて思いました。



↑トルファンでの昼食